

児童教育

サボール・アーメッド (パキスタン)

教育はいかなる国の発展にも極めて重要なものであり、国としての成功は良質な教育の上に成り立っています。パキスタンの教育状態は十分ではなく、パキスタンにおける非就学児童の数はナイジェリアに次いで世界第2位です。

公立学校の状況は芳しくなく、その理由の1つとして、パキスタンにおいて公立学校のための支出が対GNP（国民総生産）比でわずか2.3～2.6%にすぎないことが挙げられます。また、教育システムが機能不全に陥っている別の理由として、貧困と認識不足を原因とした、農村地域における教育への関心の欠如があります。パキスタンの社会は異なる文化が融合して成り立っており、なかには教育、特に女子教育に否定的な文化もあります。

パキスタンにおける非識字の問題は、厳しい状況にあります。歴代政府は、特に女性の識字率を上げるためのさまざまなプログラムを発表してきましたが、多くの政治的、社会的、文化的障害に阻まれ、プログラムを実行に移すことができませんでした。

パキスタンの教育省が発表した統計は、教育全般、とりわけ女子教育に関する実態が絶望的であることを示しています。国民全体の識字率は60%であるのに対し、女子の識字率は46%に過ぎません。特に、農村地域は憂慮すべき状況にあり、社会的、文化的障害がその要因となっています。最も嘆かわしい側面として、北部の部族地域をはじめとするいくつかの地域では、宗教上の理由で女子教育を厳格に禁じているという事実があります。これは、パキスタ



パキスタンには約2千万人非就学児童がいます

ンで主流の宗教であるイスラム教（人口の96%）の全く誤った解釈であり、イスラム教は他の宗教と同様に、男女とも教育を受けることを推奨しています。

前述のとおり、パキスタンの女性の識字率は、46%に過ぎません。パキスタン憲法第18次改正第25条Aは、5歳から16歳までの全ての児童に無償で義務教育を受けさせることをうたっています。また、州政府はその実行に向けて取り組んでいますが、高い人口増加率や低い公的教育支出が原因で、大人の平均識字率向上のペースは遅く、1981年は26%、2010年は推定で57.7%となっています。この数値は、都市部と農村部、男性と女性、および各州の識字率を合わせた平均値です。2010年の農村部の女性の識字率は、バルチスタンで22.5%、シンドで20.3%、カイバル・パクトウンクワで29%、パンジャーブで40%に過ぎませんでした。

農村部の親は、男子を収入につながるようなテクニカル・ワークショップに通わせたいと思う一方、女子は家事をさせるために家に留まらせます。女子を就学させない理由は、娘に児童婚をさせ、家庭で家事に専念させようと考えているからです。内と外の概念で言えば、女子は家事をする者、男子は稼ぎ手であるとみなしています。家父長制構造が、女子が学校や大学に行くという基本的権利を強く抑制しているのです。また、女性は男性に比べて腕力で劣るため、暴力事件も頻発しています。

パキスタンの新政権、メディア、市民社会および若者は、自国の児童教育の状況全般を改



学校の備品・必需品の不足

善することに強い関心を抱いています。また、複数の政党が教育予算の2%から7%への増額を提案しています。現在では、パキスタンの社会全体が教育に関心を示し、農村部でも親が子どもを学校に通わせるようになってきています。また、政府、市民社会および人道支援団体による現場でのさまざまな取り組みにより、全国的に女子も技術や学業の教育を受けるようになってきました。市民組織によるキャンペーン *Alif Ailaan* が、教育の推進、特に第25条A（5歳から16歳までの児童に対する無償の義務教育）の実施を目指し、全国で展開されています。

パキスタンの全ての児童に良質な教育を受ける権利を保障している憲法が、最も重要な基準でなくてはなりません。その達成を阻害するのは、以下のような要因です。すなわち、社会的資源の不足、政府の愚劣さ、汚職、政治的干渉、職場にこない無能で無資格の教員に対する庇護、質の悪い施設および教員、教育の不平等（都市部と農村部、男子と女子、および州の間の不平等）、中流下層階級の収入レベルが低いために親が子どもに良質な教育を受けさせられないという事実、親をはじめとする国民全般の教育に対する認識不足などです。これらを克服するためには、確固たる取り組みが必要です。子どもたちがパキスタンの発展と繁栄に向けて各々の役割を果たせるよう、ジェンダーによる差別を無くし、全ての子どもに良い教育を受けさせることが不可欠なのです。

過去にパキスタンの3つの州で災害マネージメントと性暴力に関して取り組んだ経験があり、現在は人権、女性教育などに焦点をおいた地域に根差した組織を運営しています。海外通信員に応募したのは、パキスタンでは未だ女性の地位が低く、ジェンダー問題は、今後

力を入れて取り組まなければならない課題だと感じたからです。パキスタン女性をエンパワーすること、彼女たちに平等な機会を与えること、そしてジェンダーを主流化することを願っています。